国際環境法

(後期 2 単位)

柴田 明穂

授業のテーマと目標

2012 年は、2002 年のリオ会議から 20 年目の節目の年であり、国際環境関連の首脳級会合が開催される。気候変動問題に対処する新たな国際法制度の交渉はいよいよ大詰めを迎え、生物多様性の保護の分野では、10 月インド・ハイダラバードにて CBD の COP11、カルタヘナ議定書の COP-MOP6 が開催される。日本の南氷洋における調査捕鯨を巡っては、国際司法裁判所における裁判が係属している。2012 年は、地球環境問題を国際法の視点から実践的に検討するために、多くの題材を提供してくれそうである。

こうした中、本授業を受講する学生は、環境の保護・保全・利用に係わる国際法的主要論点を理解し、現代国際社会が直面する様々な越境的・地球的環境問題に国際法・国際機構が如何に対応しているかについて考察する能力を養うことができる。本授業では、教員が実際に携わった環境条約運営・交渉の現場をも適宜紹介するので、受講学生は、国際環境法の形成・適用・実施・運用プロセスの実際をリアルに体感することができる。

【EUIJ 科目】

授業の概要と計画

国際環境問題に法的に対処するには、基盤となる一般国際法の諸原理を理解しておくことが不可欠である。本授業では、現実に生じている越境的・地球的環境問題を念頭に、適時に的確な法的分析ができるよう実践的な知識を教授すると共に、国際環境法を通底する一般国際法の諸原理の理解を深めることを目的とする。

そのため、本年度の授業では、国際環境法の和文教科書と英文教科書とを比較検討しながら精読し、国際環境法の理解を深める。

成績評価方法と基準

授業時の質疑応答ならびに議論への参加とその貢献度などを総合的に判断して、合計 100 点満点で行う。授業中の議論への参加（そのための予習）を特に高く評価する。期末試験、期末レポートなどは課さない。

履修上の注意（関連科目情報等を含む）

国際法の基礎的素養があることが望ましいが、毎週 30 頁強の日本語教科書の章と同じく 30 頁強の英語教科書の章をしっかりと読み込んでおくことができれば、事前に国際法・国際環境法の知識がなくとも、授業を理解することは可能と思われる。授業は日本語で行うが、対象文献や一次資料の多くは英語である。

オフィスアワー・連絡先

授業終了後に質問等を受け付ける。それ以外の時間の場合は、事前に電子メールにてアポイントをとること。

学生へのメッセージ

越境的・地球的環境問題の解決は、決して「環境保全」という理想だけでは達成できず、その背後にある国家や企業、個人の様々な利益や哲学、科学技術の発展などとの調整が必要である。国際法及び国際機構は、環境問題解決に必要な諸利益の調整を実現することができる。今や、いかなる環境問題も国際法の理解なくして理解できないといっても過言ではない。国際法という「醒めた目」で地球環境問題を見るとどうなるか、学生諸君との議論を楽しみにしている。

テキスト

和文教科書は受講者が購入することを前提にしている。英文教科書は、購入しない学生には対象箇所のコピーを配布する。

国際環境法の基本原則 / 松井芳郎 : 東信堂 ,2010年 ,ISBN:978-4-7989-0012-4
International Environmental Law / Ulrich Beyerlin and Thilo Marauhn : Hart Publishers ,2011,ISBN:978-1-84113-924-1

参考書・参考資料等

条約集は必携。その他の資料等は、教員側で用意する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

国際環境法, 国際法